

# 桐生西ロータリークラブ週報

2009-10年度RIテーマ

ジョン・ケニーRI会長 **ロータリーの未来はあなたの手に**



例会日時 毎週金曜日 12:30～13:30  
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス  
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777  
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi  
 会長 下井田秀一 クラブ会報・雑誌委員長 松原 豊  
 幹事 向田 靖 委員 井本上輔・正田恵一

No. 1758

2010年3月5日発行

## 第1866例会 (2010・2・26) 報告

- |             |                        |
|-------------|------------------------|
| 1. 点 鐘      | 6. 食 事                 |
| 2. ロータリーソング | 7. 委員会報告               |
| 3. 来訪者紹介    | 8. 卓 話 群馬大学大学院教授 片田敏孝様 |
| 4. 会長報告     | 9. 点 鐘                 |
| 5. 幹事報告     |                        |

### ◆ピジター

群馬大学大学院工学研究科 教授 片田 敏孝様	
桐生赤城RC 幹事 長谷川義雄君	
桐生中央RC 幹事、パスト会長、元AG 樋口一 枝さん	
〃 パスト会長、元G補佐 笠原 康利君	
〃 パスト会長 渋木 敏明君	
〃 パスト会長 長澤 宥 君	
〃 パスト会長 森下 正教君	
〃 会長エレクト 酒井 豊 君	
〃 新井 康家君	
〃 毒島 一夫君	
〃 増田 浩三君	
〃 水澤 亨司君	

### ◆会長報告

下井田会長

- 桐生中央RCさんが例会を変更して、本日大勢で出席して戴いております。心より歓迎申し上げます。
- 吾妻山に「モンゴリナラ」という日本では非常に珍しい木が生育しており、今枯渇の危機にさらされているそうです。「森林の会」では炭を播いてモンゴリナラを元気にさせようと活動を行っており、代表の宮下氏から根本地区社会奉仕委員長の元に支援要請がありました。それを受け当クラブが炭の購入資金として支援金を拠出し、2月21日(日)の炭を播く活動に参加しました。参加された方は根本地区社会奉仕委員長、江原国際奉仕委員長、阿左美プログラム委員長、霜村社会奉仕委員長です。大変重労働だったと思います。ご苦勞様でした。また根本大先輩のご推薦で、この活動と高津戸荘へリハビリ器具贈呈事業を合わせてRI意義ある業績賞を申請致しました。
- 友好クラブの栃尾RC様から4月2日(金)に16名で訪問されると連絡がありました。後日歓迎夜間例会のご案内を発送いたしますので、皆様には出席のご予定をお願いしたいと思います。

### ◆幹事報告

向田幹事

- 桐生赤城RCとの合同夜間例会とチェンマイ訪問の写真を関係者に配布致しました。
- 社会保険2月号が届いております。
- 例会変更のお知らせ  
桐生RC 3/22(休) 桐生南RC 3/17,3/24 太田RC 3/18

伊勢崎南RC 3/16,3/23 高崎東RC 3/11 富岡中央RC 3/4,3/25(休)  
 富岡かぶらRC 3/2,3/9,3/30(休) 渋川みどりRC 3/9,3/16,3/30(休)

◇クラブ会報が到着しています

桐生RC 2/22 桐生赤城RC 2/16

### ◆食事メニュー

1225キロカロリー

ミックスフライ、とり団子と白菜のクリーム煮、香の物、白飯、ワンタンスープ、海月と海草のサラダ、苺杏仁豆腐

### ◆委員会報告

#### □出席委員会

花房委員長

総数48名(免除者8名の内5名出席の為3名を除く)  
 出席率対象者45名、出席率対象者出席人数37名  
 欠席者8名(内前メイク1名) 出席率84.44%  
 前々例会修正出席率80.00% (最終欠席者9名)

#### □ニコニコBOX委員会

石川委員長

2月9日の合同例会ではお世話になりました

桐生赤城RC・長谷川君

会長幹事のお二人に過日はご馳走になりました

桐生中央RC・増田君

片田先生、卓話ありがとうございます 正田君、

石川君、稲森君、乾君、栗原君、阿左美君、向田君

片田先生の卓話に中央RCの皆様を歓迎します 井本君

桐生中央RCの皆様を歓迎いたします 下井田君

須田さん鳥居の工事ではお世話になりました 津久井君

#### □ロータリー財団委員会

前原委員

片田先生、卓話ありがとうございます

片貝君、稲森君、塚本君

中央RCの皆様お久しぶりです 阿左美君、江原君

#### □米山奨学委員会

船戸委員長

片田先生、卓話ありがとうございます

片貝君、稲森君、乾君、阿左美君

730kgのリサイクル物品を2往復5時間かけて回収してきました 船戸君

#### □ゴルフ部

松原部長

3月11日の第3回ゴルフコンペの申込が今15名です。

後1人で4組になりますので、ご協力をお願い致します。

### 《次例会予告》

3月12日(金) 会員卓話

3月の出席100%表彰、誕生・結婚祝い

## 卓 話



群馬大学大学院工学研究科  
社会環境デザイン工学専攻

教授 片田敏孝様

「都市の防災」

—変革が求められる日本の防災—

本日は前半に主に災害と防災の現況を、後半は災害が多発する厳しい現況に対し、地域をめぐる住民と行政の関係はどうあるべきかという事をお話したいと思います。

まず、ここ最近大変災害が多い状況になっており、地震は多発期に入っているとされています。また豪雨災害が非常に多くなっています。1つには台風由来のもの、局所的に起こるゲリラ豪雨の2つあります。地球温暖化が進み、それが各地にゲリラ豪雨をもたらしている事が明確になりました。

昨年、台湾でとてつもない台風が起こり、3日間に3,000ミリの雨が降りました。それでどんな事が起きたかと言いますと、深層崩壊が起こり山が根こそぎ村の上に乗っかってしまい、村人六百何十人がその下に全部埋まってしまいました。いよいよ地球温暖化による大きな台風の被害が、現実の問題となってきたとひしひしと感じ、こうなった時、諦める以外にない事を認識しました。

現在世界中で発生している台風、ハリケーン、サイクロンの数は36個です。その内カスリーン台風並みの大台風が凡そ3個です。それが2100年の段階で倍増の6個位になるだろうと言われています。台風そのものの数は、地球温暖化により対流のメカニズムが起こりにくくなって減ると言われておりますが、日本より近いところで台風が発生するようになります。海洋気象上で、日本近海は亜熱帯と呼んでも良い状態になっており、台風は海水温26～27度位で発生すると言われていまして、日本近海で起きた台風が成長し続けて日本にやって来るといふ、最悪の事態になります。

一般にハリケーンの方が大きいイメージがあるかと思えます。ハリケーンが起こるカリブ海の辺りは、直ぐ近くにフロリダなどの陸地がある為、もたらす被害が大きいからです。台風も大きいのですが、今のところは大きいうちは海にあり、勢力が衰えて日本にやってきていまして、これからは日本もフロリダの様な状況になるので、今後は台風に気を付けなくてはなりません。

地元桐生に目を向けますと、桐生は扇状地と扇状地の間にあり、関東平野の中でも一番豪雨災害の危ない地域と言えます。渡良瀬川も桐生川も川の勾配がきつい川です。それに沿って市街地が展開しているので、ひとたび氾濫すると凄まじい激流が走って非常に危険な街です。その様な認識を市民は本当に持っているのだろうか大変心配になります。

そしてもう一つ、桐生市民が大変無防備なのが地震です。岩宿遺跡には液状化して地面から砂が吹き出してきた跡が出てきていますし、桐生は柏崎銚子構造線という上に在りまして、隠れ断層が幾つか有るものと思われまます。新潟の中越地震も、真ん中の隠れ断層から起きました。そういう面から言いますと桐生も丁度真上にありますので、同じ様な事態が懸念されます。関東大震災でも大丈夫だったという桐生の安全神話みたいなものもありますが、決してそんなことは無いと強く申し上げます。

更に言うならば、群馬で最も危険なのは浅間の噴火です。天変地異をもたらした天明の噴火が1783年に、その前の1108年に天仁の噴火がありました。概ね周期性がありまして、この次は何時あるかとは言えませんが、

最近の観測状況を見ておりますとひょっとしたら近いかもしれないという説もあります。これは群馬にとって大変な問題です。噴火そのものも怖いのですが、その後には火山灰が降り積もって、これが数年に亘り大土石流を各地にもたらし、土石流が川底に入って川の底を上げます。そうすると今の堤防の高さでは全然効かなくなって、ちょっとした雨でも各地で大洪水が発生し、向こう五十年、百年は災害だらけの状況となります。これが我々が一番恐れていることです。

そこで、後半の行政と住民の関係に移りますが、私が桐生に赴任して調査した結果、カスリーン台風から約60年以上経ち、関東大震災でも大丈夫だった為、住民の完全な安全ボケが判明しました。先に述べた様に、これを根こそぎ崩しておかなければならないと思います。

渡良瀬川も堤防が出来ているように見えますが、実は整備率が30～40%位しかないのです。暫定的に堤防の上に土を盛ってあるので、一見出来ているように見えるのですが、堤防というのは幅をとらなければいけないので土地を買わなくてはなりません。それが出来ないので高くしてあるだけなのです。こういう堤防のことを薄くしてすぐ切れる“カミソリ堤防”と言います。幸いにもゲリラ豪雨やカスリーン台風並みの台風にも見舞われずにすんでしまいましたが、実は本当に危ない所なんだと認識していただきたいと思えます。

日本の防災は全部基本的に行政がやるという仕組みになっております。堤防を造るのもダムを造るのも、逃げなくてはならないとき避難勧告を発するのも行政です。それが機能すれば良いのですが、機能しなくなってきたというのが状況です。ゲリラ豪雨というのはほんの数分で鉄砲水が来て大きな被害をもたらします。上流の雨を観測して、下流に伝えて、住民を逃がすという、この様な時間すら無い、つまり情報が出せない場合があるので、また情報が出せたところで救いきれないこともあります。的確な時間に避難勧告を出したにも関わらず、既に事態は逃げられる筈が無い状況になり、逃げの途中で死亡したり、却って危険な状態にさらされてしまうケースがあります。では全員避難する必要があるのだろうかという問題になります。行政が避難勧告を出したから逃げる、出さないから逃げないのではなくて、其々住宅の立地場所や家屋の構造、家族の中で避難困難者の有無などを、個人々々で最適な状況を判断しなければならない状況になってきています。ところが現行では全部行政任せの住民がいたり、避難勧告が出ても従わない住民がたくさんおります。その為、この様な講演の機会を全国各地で戴いて、住民の自主的な避難を求めているのですが、しかし、これも上手く行かなくなったということが実際に発生しました。

それは、5年前にも非常に激甚な災害に遭った為に住民の防災意識が大変高く、住民の活動も活発な地域が、再び台風による豪雨災害に見舞われました。住民は避難勧告が出る前に、万全を期した行動をとって自主的に避難する途中、次から次へと流されて多くの犠牲者が出たという、日本の防災の中でも非常に衝撃的な事件が起きました。

こうなってくると、行政が情報を出す事も難しい、住民の意識が高いだけでもダメ、では何が重要になってくるかと言いますと、自分の命を守る為に知恵を備えた主体性を持った人間でなくてはならないという事です。

しかし、災害対策基本法には全部防災は行政が行うようになっており、確かに災害犠牲者は減ってきました。一方、その影で行政依存意識を持った住人が増えて、犠牲者が出てくる状況になっています。自分の命は自分で守るといふ住民に変えて行かなければならないというのが、今の現状です。

そこで『居安思危』（こあんしき）「安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し」この言葉を、心に留めておいて戴きたいと思えます。